

## 第5回 京都会館の建物価値継承に係る検討委員会 摘録

□ 日 時：平成24年3月28日（水） 午後6時00分から午後7時10分まで

□ 場 所：職員会館かもがわ 大会議室

□ 出席委員（敬称略）

委員長

岡崎 甚幸 武庫川女子大学建築学科教授，京都大学名誉教授

副委員長

石田 潤一郎 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授（日本建築学会推薦）

委員（五十音順）

伊藤 久幸 財団法人新国立劇場運営財団技術部長

衛藤 照夫 社団法人京都府建築士会会長

澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長

道家 駿太郎 社団法人日本建築家協会近畿支部京都会会長

中川 理 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授（日本建築学会推薦）

橋本 功 株式会社前川建築設計事務所所長（現京都会館を設計した事務所の代表者）

### 1 開 会

#### (1) 資料の確認

事務局

### 2 議 題

岡崎委員長

- ・ 最終回となる本日は，本委員会として，これまでの委員会での議論を踏まえ，「京都会館の建物価値継承に係る検討委員会提言」をまとめたと考えている。

提言案については，委員長と副委員長で起草をし，事前に委員の皆様を送付させていただいている。

- ・ 本日は，先ず事務局から，前回議論をした共通ロビーの補足説明及び，現時点での基本設計案の説明をいただき，その後，提言案について議論をしたいと考えているので，委員の皆様の御協力をお願いします。

それでは，事務局から説明をお願いします。

#### (1) 基本設計案について

事務局（平家都市計画局公共建築部長）

- ・ それでは私どもから御説明させていただく内容として，

- ① 共通ロビーに関する補足説明
- ② 現時点での基本設計案

について，担当課長の福島から御説明させていただく。

事務局（福島都市計画局公共建築部建築担当課長）

- ・ 配布した資料1から5の説明をさせていただく。

（資料5「共通ロビーについて」の説明）

- ・ 第4回の検討委員会で、共通ロビー部分の欄干の保存方法について、委員の皆様から御意見をいただき、議論の中で、欄干を内部化するに至った検討結果が分かる資料を用意し、説明する旨お答えしていたので、まず、その内容について説明させていただく。
- ・ 基本設計段階の共通ロビーに対する基本的な考え方は、既存バルコニーの欄干をしっかりと残り、現代のホールとして必要な機能を確保することが重要であるとの考えのもと検討を行った。
- ・ 京都会館の建物価値として重要な要素である欄干については、現状の欄干をしっかりと保存し、今後の劣化を最小限に留めるため、内部化することとした。  
また、機能面については、第一ホールや第二ホール、多目的ホールが内部空間で一体的に使用できる新たな動線の必要性和、現在の課題でもある開演までの客待ち空間を内部で確保することにより利便性がさらに向上すると考えた。
- ・ そのうえで外観デザインの検討を行い、バルコニー部分の欄干を内部に取り込むことが最善の方法であると考えた。
- ・ 本日配布した資料は、その検討結果をまとめたものである。  
基本設計の過程において、欄干を内部化した場合と2階バルコニーの通路幅を1メートル20センチ確保し、外部化した場合で検討していたが、前回の委員会で、内部空間をできる限り広げたうえで、外部化したケースも考えられるのではないかという御意見をいただいた。
- ・ このため、2階バルコニー部分の通路を40センチメートルとしたものも新たに検討し、その結果を取りまとめた。
- ・ それでは、資料5の共通ロビーの検討結果について説明させていただく。  
「内部案」の図面を御覧いただきたい。
- ・ 2枚目の左側の1階平面図では、共通ロビーの有効幅が4メートル確保できており、第二ホールの客待ち列を考えても、当日券売場前の空間を確保したうえで車椅子の通行も可能である。  
右側の2階平面図では、共通ロビーの一番狭いところで3メートル30センチ確保でき、客待ち列を考えても、車椅子の通行に支障のない通路幅が確保でき、400人程度の客待ちが可能となる。
- ・ また、欄干を内部化するため、劣化の心配が少なく、バルコニーの構造的な補強や雨仕舞をする必要がないことから、将来の維持管理も行い易いと考えている。
- ・ 次に、「外部W1200案」の図面を御覧いただきたい。  
（外部W1200案の）2枚目の左側の1階平面図では、共通ロビー有効幅は3メートル40センチあるが、バルコニーの構造補強のため、中間部分に柱や、2階バルコニーの雨仕舞のための縦樋を設けることになる。
- ・ 第二ホールの当日券売場前の空間や車椅子の通行のための通路を確保し、第二ホールの客待ち列を考えると、その部分に構造補強の柱や縦樋が重なり、安全面で問題があると考えた。  
右側の2階平面図では、共通ロビーの一番狭いところで、1メートル80センチしかなく、

客待ち列を伸ばすと車椅子の通行の支障になり、客待ちも200人程度になる。

- ・ 便所の位置を見直し、通路幅を広げる検討も行ったが、⑤通のF通～G通間の位置に耐震壁を設ける必要があり、通路幅を広げることは難しいと判断した。

また、(外部W1200案の)1枚目の断面図に示すとおり、バルコニー部分の構造補強のため、1階に柱や雨仕舞のため縦樋を設ける必要がある。

なお、外部のバルコニーの床には防水を行う必要があるが、防水の立ち上がりが少なく、将来を考えると維持管理上も問題があると考ええる。

- ・ 最後に、「外部W400案」を御覧いただきたい。

左側の1階平面図では、バルコニー部分の構造補強のため、柱を設ける必要があり、共通ロビーの有効幅は、2メートル60センチしか確保できず、客待ち列を考えた場合、残りの通路幅は、1メートル20センチしかなく、車椅子に健常者が同行する際の通行に難がある。

- ・ 右側の2階平面図も、1階と同じく共通ロビーの一番狭いところで2メートル60センチとなり、車椅子が通行しにくくなり、(外部W400案の)2枚目の断面図に示すように構造補強のため、1階に柱や雨仕舞のための縦樋を設ける必要がある。
- ・ なお、欄干とガラス面が近いこともあり、バルコニーの床防水が困難で、将来の維持管理上も問題があると考ええる。

- ・ 外観デザインについては、欄干の水平ラインをガラスのカーテンウォール越しに見せることで、中庭からの雰囲気が残るよう考え、新たに設けるカーテンウォールは、水平線が強調される屋根形状にすることで、会議棟のバルコニーの下部で水平線が重なりあうよう工夫した。
- ・ これら三つのケースで再度検討を行い、項目別に比較し一覧表にまとめているが、現時点では欄干を内部化することで検討している。

- ・ 資料1から資料4については、これまで4回の検討委員会の議論を踏まえ、建物価値を継承する点を取りまとめた資料である。
- ・ 本日提示している配置図・平面図・立面図案等については、「検討委員会」や「施設利用者」等の御意見を踏まえ、検討を行っている基本設計案であり、今後、関係部署との協議等により、若干変わる可能性はありうる。

#### (資料1「配置図・平面図案」の説明)

- ・ 資料1の「配置図・平面図案」を御覧いただきたい。  
配置図及び1階から5階までの平面図を示している。
- ・ これまで4回の委員会で、京都会館の建物価値の優れている点として確認いただいた二条通からピロティを経て中庭に至る動線、さらに、第一ホールのエントランスから冷泉通を見通せる「抜け」をしっかりと継承することとしている。
- ・ ピロティ、中庭の価値を継承し、魅力的な空間として整備することとしている。  
また、建て替える第一ホールについては、大庇とその陰影や壁面位置は、継承することとしている。
- ・ 配置図及び各階平面図に赤の文字で建物価値として継承する内容を示している。

#### (資料2「改修部分色分け図」の説明)

- 資料2の「立面図 改修部分色分け図」を御覧いただきたい。  
建物の外観に影響する部分がどのように改修されるのか分かるように整備内容を
  - 比較的健全な状態であり、下地等補修の必要がないものを緑色
  - 補修を要するものを水色
  - 著しい劣化が見られ、交換が必要なものを赤色
  - それ以外の更新する箇所をオレンジ色で立面図に色分けしたものである。

#### (資料3「立面図案」の説明)

- 資料3の「立面図案」を御覧いただきたい。  
各立面図の上段が現況の立面図で、下段が再整備後の立面図を示しており、建物の外観として重要な要素と改修方法及び現在考えている仕上げ等について示している。

#### (資料4「既存意匠の継承に関する検討項目」の説明)

- 資料4は既存意匠の継承に関する検討項目リストである。  
これは、改修に当たって平成16年度に行った基本調査と今回現状を再度確認し
  - A：健全な状態にあり、下地等補修の必要のないもの
  - B：補修を要するもの
  - C：著しい劣化が見られ、交換が必要なものという内容で分類し、項目別に取りまとめている。
- なお、第4回の検討委員会で壁画の由来について、橋本委員に調べていただくことになり、本日、資料を用意していただいたので、後ほど御説明をいただく。

#### (参考資料2「イメージパース」の説明)

- 参考資料2として、外観のイメージスケッチを3枚用意した。  
1枚目は、二条通りの南西角から南面を見たもの、2枚目は、二条橋西側から疏水を挟んで西面を見たもの、3枚目は、中庭から共通ロビーを見たものである。
- 本委員会での真摯な御議論により、京都会館の建物価値が明確になり、今後はそれを受け、今日的な条件を踏まえ具体的な設計作業を行っていく。
- 検討すべき点はまだまだあるが、京都会館の優れた部分をしっかり継承し、今の建物価値がさらに高められるよう、基本設計の受託者である香山壽夫建築研究所と連携し、全力で設計作業を進めていきたい。
- それでは壁画の由来について、橋本委員から御説明をお願いしたい。

### 橋本委員

- ・ 配布した資料のうち、参考資料1を御覧いただきたい。  
前回の委員会において、壁画についてどのような由来があったのか、私自身がよく把握していなかったため、前所長の田中清雄氏に確認したものである。
- ・ 田中氏は京都会館の初期の設計スタッフであり、かつ、現場にも時々足を運んでいたということもあり話を聞くことができた。  
忘れられていたことも当然あったが、結構よく覚えておられ、聞き取った内容を参考資料1にまとめたものである。

### 【参考資料1 読み上げ】

### 岡崎委員長

- ・ どうもありがとうございました。  
それでは、共通ロビーについて各委員の御意見をお伺いしたい。

### 道家委員

- ・ 前回の検討委員会でも申し上げたように、なるべく機能的に最小限の、どうしても必要なものの以外のことはせずに全体の保存を考えた方が良く考えている。
- ・ 疑問点として、資料5にあるような長い行列をつくって待つことがあるのか。あったとしても数年に1回あるかどうかではないのかと思うので、これを前提にして共通ロビーの必要性を説明するには無理があるのではないかと思う。
- ・ また、外側から「透けて見える」と説明があったが、実際はガラス面で反射してしまい、見えないのではないか。  
無理やり見せるということであれば、ガラスの反射を抑えるなどの対策が必要になる。

### 衛藤委員

- ・ 前回の検討委員会から特に考えは変わっていない。香山先生がガラスで覆うという考えを出され、委員会の多くの委員の意見として、外に手摺を出した方がいいとの意見が出た。  
双方の意見に共通しているのは、現在の京都会館をどうすればうまく活かし残せるかを考えてのことだと思う。
- ・ 当初、ガラスで覆うということは大胆な発想で、面白いアイデアであると思っていたが、考えていくうちに、その部分のガラスの存在感は消すことができないのではないかと考えに至り上記の意見に賛同する。

### 橋本委員

- ・ 第3回の検討委員会資料として提出したレポートにおいて、手摺という要素が庇との兼ね合いにより外部空間の水平要素となっており、外部の要素である手摺・欄干を内部化することは気になることをお示した。
- ・ 有効寸法などを突き詰めていくと、なるほどと思う点もあるが、全体の佇まいをどう活かし

ていくかということを見ると、技術的な問題は理解できるが、外部のものとして外にあるべきではないかと考えている。

#### 中川委員

- ・ 私も以前と考えは変わっていない。  
機能改修という点で言えば、ガラスで覆った方が合理的であることは当然である。  
問題と思うのは、今日の最後の議題である提言案の中でも出てくると思うが、機能的な利便性と歴史的な価値とのバランスをどのように考えるかということだと思う。
- ・ 京都会館の場合、このような建物価値検討委員会を設けて検討しているので、この場合は、機能的な部分よりも建物価値の方が大きいのではないかとと思う。
- ・ 建物、施設の価値については二つあると考えている。  
一つは機能的にどれほど優れているかということであり、もう一つは建物、施設に表情やデザイン、歴史的な記憶といった良さを感じることができるという点である。  
京都会館の場合は、後者の方がより重視されるべきではないかと考えている。
- ・ そういった意味では、機能として、多少不便であったとしても、そうした建物の価値が施設としての価値につながると思っているので、特に、中庭の手摺を含めたデザインは建物価値の一番重要なところであると考えてるので、機能的な要求だけを理由にガラスでふさいでしまうのはまずいのではないかとと思う。

#### 石田副委員長

- ・ 私も前回までの検討委員会での意見と変わっていない。  
本日の資料による比較は、内部化案がいいことづくめのように描かれているが、内部化案では高さ6メートル程度のカーテンウォールが延々と続くことになり、これをどのような補強方法をもって建てていくのか、手摺を外部化した時に既存躯体を補強する方法と比べ、どの程度の差があるのか疑問である。
- ・ 内部化の場合は雨仕舞いが必要ないとのことだが、その場合は室内の仕様として各部を仕上げていかないといけない。  
高さ6メートル以上になるカーテンウォールの屋根部分の掃除はどうするのかなど、必ずしも機能的な点でも優れているとは思えない。

#### 澤邊委員

- ・ 行列ができるぐらいの芸術家が呼べるだけの建物にしてほしいし、そういった方たちが京都会館に来たいと思ってもらえるような建物にしてほしいと考えている。
- ・ 共通ロビーにどれだけの人が実際に並ぶかは分からないが、京都会館の中庭をよく通る者としては、京都会館で催し物があるとき、雨のときには子どもたちが準備をしたり、あるいは、重なり合って待っているといた情景を見ると、共通ロビーのように待てる場所が、今あるのであれば別だが、ないのであれば必要であろうと思う。
- ・ 前回の検討委員会でも申し上げたように、欄干が素晴らしいということはよく分かった。  
これを外から見ることと、中から見ることのどちらが建物価値が大事かということ、中から外

を見ることも建物価値と言えるであろうし、外から中を見ることにも建物価値はあると思うので、お互い譲り合う必要があるのではないかと考えている。

#### 伊藤委員

- ・ 私も以前までと考え方は変わっていない。劇場にはロビーというものは必要で、昔と違って暑い時や寒い時、風が吹いた時など、雨が降った時だけでなく人が待つ、開場時間が来るまで待つための空間は必要である。
- ・ お客さんが並ぶケースは少ないということは、並ぶような公演が京都会館に来なかっただけではないのかと思う。
- ・ また、車椅子対応ということについては、どこの劇場でもそうだが、どこをどういったルートで通ることができるかは、常に指摘されることなので、狭くなっているということを前提に、多少利便性が下がってもいいのではないかとすることは、今の時代にはそぐわないのではないかと考える。
- ・ 新国立劇場では2階建ての部分に対してもエスカレーターを設置してほしいといわれているぐらいで、ロビーを含めた使い勝手を上げて利用率を上げていくことを考える必要があるのではないかと考える。

#### 岡崎委員長

- ・ ルーブル美術館には中庭広場の真ん中にガラスのピラミッドがあるが、あれが広場を囲う建物にへばりついているようなことになっていると、どういったことになるのかと思うと心配になる。
- ・ この委員会では、平面計画は検討のテーマになっていないが、できれば、外観に対する要望をいかしつつ、もう少し基本計画まで戻ってしまうかもしれないが、ルーブル美術館のように中庭から地下に入っていく、中庭の下に広い共通ロビーがあり、そのまま各ホールのホワイエにつながっていくといったようなことがあってもいいのではないかと考える。
- ・ この場合、当然第一ホールは地下に下がることになるが、こういった点まで戻って建物価値を重視しつつ平面計画を検討してもらえればよいのではないかと、難しいことだと分かっているが、共通ロビーに関してはその様に考えている。
- ・ 共通ロビーについては、このように各委員、それぞれの御意見があったということで終わらせていただく。

#### 衛藤委員

- ・ 質問だが、共通ロビーを狭くする2案とも荷重を支える柱が必要とされており、外部化する時には不要とされている。  
この場合、新たな荷重となる部分は2階部分のカーテンウォールで、これを支えるため、1階部分に柱が必要になるということだと思うが、この点を構造的にもう少し詰めていくことはできないのかと感じた。
- ・ 確かに、1階部分に柱があるとかなり通路部分が狭くなる。デメリットはあるが、自分としてはガラスを内側に設置することが重要だと考えた。

- ・ 行列ができるかどうかについては、自分にはよく分からない。音楽やオペラなど他のホールに行った場合に、この資料5のようにお客さんが並ぶといったことを見た経験がない。  
ここでは必ず並ぶことになるのか。並ばないように、開演の時間に併せて来場するというようなシステムは構築できないのか。
- ・ その上で行列が必至ならば資料のように難しいが、その辺りについての説明が不足しているように思う。

#### 澤邊委員

- ・ 平安神宮では音楽の催しがよくあるが、その時には全国からたくさんのお客さんが来られ、すごい行列が大手門の前の広場付近まで何重にもでき、公演スタッフが「最後尾はここ」と案内しているのをよく見る。
- ・ こういった情景が京都会館にそのままあてはまるかどうかは分からないが、素晴らしい芸術家が来られた場合などには座席指定があったとしても並んでおられるし、中には合羽を持って並んでおられる方も結構おられる。

#### 事務局（福島都市計画局公共建築部建築担当課長）

- ・ 衛藤委員の構造補強に関する御質問についてだが、2階に設けるカーテンウォールの荷重を受けるためにバルコニーに方立てが並ぶことになるので、それ自身を受けるための柱が真下に設置されるものと考えている。
- ・ 1階柱の位置については若干検討の余地はあるかもしれないが、2階部分からの荷重を受けるための柱は絶対に必要なもので、今は荷重を一番有効に受けることができる2階部分の真下に柱を設けているものである。

#### 道家委員

- ・ バルコニーの部分は片持ちになっていて、かなりの鉄筋量があると思う。  
そうであれば、実際に柱がなくても構造的に余裕があるのではないかと。

#### 衛藤委員

- ・ 内部と外部では荷重条件が異なってくるので、そういった点も考慮した上で事務局から回答があったものと解釈している。

#### 事務局（内山文化市民局文化芸術都市推進室長）

- ・ 公演の際、実際にお客さんが並んでいるのかどうかの御意見があり、私自身が常に年間を通じて京都会館の状況を把握しているわけではないが、芸術文化協会が京都会館で幾つかの催し物を開催している。
- ・ その中で特に多く並ばれているものにビッグバンドフェスティバルというイベントがあり、この場合は中庭を蛇行しながら二条通に抜け、更に二条通でも並ばれているような状況である。
- ・ 御高齢の方がたくさん来られるイベントには民謡祭りというものがあるが、この場合にはハンディタイプの椅子を持参されて並ばれている方もいる。



他にも日本舞踊やバレエなどでも多くの方が並ばれており、自由席ということもあるが、多くの方が並ばれているような状況はある。

#### 事務局（尾崎文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課京都会館再整備担当課長）

- ・ 補足させていただくと、第4回の検討委員会の会議資料5の1ページ目において、お客様が並ばれている様子を写真でお示ししている。

自由席の場合でもそうだが、指定席の場合でも並ばれているケースがある。

#### 衛藤委員

- ・ 希望であるが、開演前に並んでまで公演に行くのは楽しくないと思う。並ばないでいい方法を考えていくべきと思うので、その改善については検討をお願いしたい。

自由席の場合などは仕方がない点もあるかと思うが、1点に集中して並んでいくという発想自体がよくないと思うので、これは解決していくべき課題と思う。

## (2) 委員会提言について

#### 岡崎委員長

- ・ それでは、委員会からの提言に議論を移したい。  
委員会からの提言案を本日の資料として添付させていただいている。  
私と石田副委員長でまとめ、委員の皆様には既にお送りさせていただいている。
- ・ 前文における初めの2節については、これまでの議論もあって、委員の皆さんは既によく御存じであると思うので読み上げは割愛させていただき、3節目から読上げさせていただく。

#### 【3節目以降 委員長読上げ】

- ・ この提言案について、各委員何か御意見はおありか。

#### 【特に意見は発せられず】

- ・ それでは、委員長と副委員長で最終的な修正や文言調整を行うので、最終的な文書ができた後、各委員に御連絡をさせていただく。

- ・ これまでの議論に何か付加するような御意見はおありか。

#### 道家委員

- ・ 今の提言案に加え、最終的な意匠の考え方については、フライタワーをはじめ、香山先生にデザイン能力を発揮していただくことになる。

これが基本設計だけで終わってしまうのではなく、建築家が最後までデザインに責任を持って取り組んでいただけるような仕組みについて考えていただきたい。

## 中川委員

- そもそもこの委員会の開催と基本設計は順序が違うのではないかと思う。  
本来は、この委員会で提言を出し、それに基づいて基本設計が進められるべきであるが、並行して基本設計が進められている。
- したがって、進められている基本設計を検討委員会の委員が見ながら未完成なものを取り上げて意見を述べているが、これは本来少しおかしな話だと思う。  
私が望むのは、この委員会から提言を出すので、是非ともこの提言に書かれていることを今一度確認していただき、基本設計を進めていただきたい。
- 特に共通ロビーについて、これは基本設計から出てきたアイデアであるので、そのことも含めてもう一度検討委員会の提言に沿ったものかどうかの検証をしていただきたい。
- 共通ロビーについても外観意匠の継承として強く提言しているので、このことを振り返って検証していただきたいと思う。また、壁画については橋本委員から由来を御紹介いただいたが、フランソワーズ・ショエ（Choay, Françoise）がほめていた内容については自分自身まったく同感である。
- あの壁画は意義の高いものだと思うし、あの壁画をどのような形で残していくかについては是非検討していただきたい。
- 一番重要なこととして、高さの問題については景観シミュレーションから見ても、あの高さが周辺にかなりの圧迫感を与えるのは明らかである。  
このことは、提言の最後の6番に記載している再整備基本計画を柔軟に運用するということにつながると思うが、委員長がおっしゃっていた地下空間の活用など、高さを抑える方法があるはずである。
- 我々としては、提言でも述べているように、1メートルでも低くするという努力をしてもらいたいという提言になっているので、その辺りについては京都市と設計者で是非とも検討をしていただきたい。
- 順序は逆になっているが、この提言に基づいて設計案を検証していくということを是非お願いしたい。

## 橋本委員

- 今、中川委員の発言は当然のことであるが、残念ながら価値継承検討委員会での検討があつて、その議論の内容が基本計画に盛り込まれた後に基本設計が進むという環境ではない中で、香山先生には随分と現状を考えながら様々な案を出していただいた。
- たまたま基本設計と価値継承検討委員会が同時進行しているということで、あたかも香山先生のデザインを材料にしながら批判しているという印象もあったかもしれないが、それは委員会の本意ではない。
- 本来、京都会館の価値をどのように継承し、伝えていくかということをまとめることが委員会としての一つの役割であったということは重く受け止めていただきたい。  
また、一方では、先ほどの道家委員の発言にも関係してくるが、もう一つの側面である建築家の職能性という問題を考慮すると、これまで香山先生が進められてきた内容について、この提言を受けてまったくのゼロから設計を進めることではないと考えている。

- そのため、是非とも基本設計をまとめるに当たっては、今回の提言に対して、建築家としての香山先生から「この提言に対しては、このように私は解釈した」という理念を示していただきたい。
- 当然ながら、どの建築家も考え方、歴史観、デザイン・方法論をもっており、これは良い、悪いの問題ではないと思うので、現実的な話として今回の提言に対して、香山先生が自らの理念に基づいて、最終的にこのように設計したということを示していただきたい。
- こういった理念が、京都市がプロポーザルで建築家としての香山先生を選んだ大きな理由だと思うので、選んだ以上はこの提言は大事であるとしても、香山先生の建築家としての立場を尊重されなければならないと考えているので、総合的な論議の中で京都市には対応をしてもらいたい。
- 同時に、実施設計や工事に当たっても一連の考え方が最終的にどのように実現するか、私自身の願いでもあるが、最後まで何らかの形でこの事業にはかかわっていただきたいと思うし、その道筋を京都市には用意してもらいたい。
- これこそが、歴史の大きな流れの中で、今回の京都会館の再整備に当たって、真摯に行われた検討と基本設計にどのように反映され、さらに実施設計や工事にどのように反映されていったかを我々は見守っていく義務があると検討委員会の一人として感じているので、今後の展開をお願いしたい。
- そういう意味で、今回の提言は、検討委員会で真摯に議論が行われた上でのふさわしい提言であると、私自身岡崎委員長と石田副委員長によくまとめていただいたものと感じている。

#### 岡崎委員長

- 本委員会は、京都市民に長年にわたって親しまれ、また、建築の歴史的価値として高い評価を得ている京都会館の機能向上を図るための再整備において、京都会館の建物価値を継承することができるよう検討するために設置された。
- 委員の皆様のご協力により、この難問に対して、大変有意義で真摯な議論ができた。  
委員の皆様へ深く感謝したい。
- 今後、京都市においては、本委員会の提言を踏まえ、基本設計受託者の香山建築研究所と一層連携し、京都会館の建物価値をしっかりと継承した基本設計となるよう、残された期間において、全精力を傾け努力されることを望み、また、期待している。  
それでは、事務局に進行をお返す。

#### 事務局（平竹文化市民局文化芸術担当局長）

- 本当に熱心に御議論いただき、誠にありがたく思う。  
委員会の期間が短期間であったこと、また、委員の皆様は大変御多忙な方ばかりであったため、会議の開催にしても、委員の皆様すべてにできる限り集まっていたかのようにするには、本日のように夕方遅くからの開始ということをお願いすることがこれまでもあった。
- そういった状況にもかかわらず、会議に御出席いただき、忌憚のない御議論をいただいたことには心から感謝を申し上げたい。
- とりわけ、岡崎委員長及び石田副委員長におかれては、議論が様々な観点からなされるとい

う非常に難しい会議であったにもかかわらず、先ほどから何人もの委員の方から高く評価された提言案として本委員会を締めくくっていただいたことについてありがたく思っている。

- その内容については、橋本委員からもあったが、大変重いものであると受け止めており、基本設計業務の受託者である香山建築研究所と共にこの提言を消化し、活かしていけるようにして参りたい。
- また、この委員会については、非常に熱心に傍聴に来ていただいている方もおり、今回も多くの方が傍聴に来ていただいている。  
そういった意味でも、京都会館には様々な思い出をお持ちの方がたくさんいらっしゃるということを我々としても改めて知る機会になった。
- それぞれの方々のお気持ちに応えられるような再整備にしていきたい。  
改めて感謝を申し上げます。

### 3 閉会

以上